

2017 年度特定研究奨励金 報告書

報告者所属・氏名

所属	文学部英文学科	氏名	志渡岡 理恵
----	---------	----	--------

奨励金による研究活動・実績（具体的に記載）

平成 29 年度は、オリエンタリズムと女性の旅行記に関する研究書を集め、論点を整理する作業から始めた。オリエンタリズムに関しては、Edward Said, *Orientalism*(1978)のとくに 18 世紀と 19 世紀のオリエンタリズムの違いについて論じている箇所を中心に精読したうえで、サイード以降のオリエンタリズム論の展開を追った。なかでも Srinivas Aravamudan, *Enlightenment Orientalism: Resisting the Rise of the Novel* (2012) や、Gerard Cohen-Vrignaud, *Radical Orientalism: Rights, Reform and Romanticism* (2015) が参考になった。女性の旅行記に関しては、Judith Tyner, *Stitching the World: Embroidered Maps and Women's Geographical Education* (2015)を用い、女性の地理に関する知識がどのように形成されたかを理解したうえで、旅とアイデンティティの関係を論じている Emma Tomsett, *Women, Travel and Identity*(2013)などを参照して、女性の旅行記を分析する視点を多角化・深化させた。

これらの研究書を収集する際に、18 世紀後半から 19 世紀前半にかけての女性の移動に関する学際的な研究書 Ingrid Horrocks, *Women Wanderers and the Writing of the Mobility, 1784-1814* (2017)に出会い、日本ジョンソン協会年報に書評を書いた (2018 年 7 月刊行予定)。また、18 世紀後半英国の女性の旅行記を含む翻訳『ジョンソン博士とスレイル夫人の旅日記』の書評の依頼を日本英文学会から受け、上記の研究書から得た知見を活かして執筆した (2018 年 11 月刊行予定)。

次に、18 世紀に東洋への旅行記を最初に書いた女性と目されている Mary Montagu と、彼女に対抗したと言われる Elizabeth Craven のテキストの比較研究に取り組んだ。この研究は現在も継続中である。論文としてまとめたのは、ここ数年取り組んできた 18 世紀の女性の旅行記／冒険小説研究のひとつである(「トランスアトランティック・ヒロイン—*The Female American* における異種混交性とポリフォニー」『実践女子大学文学部紀要』第 60 集)。